

## ◆◆◆ 花粉飛散量予測あれこれ

毎年、この時期になると翌年の花粉飛散量予測がちらほら聞こえてきます。ここ数年、飛散量予測の的中度合いがあまり芳しくないようですが、これには未把握のヒノキ科花粉の飛散量が多くなりつつあることもその一因といわれております。一方で、花粉の飛散量は前年の夏の気象条件に左右されることが知られておりますが、平成17年以降、7月の日照時間が少なかったこともあり、このことがスギの個体差を助長し、ばらつきが多くなっているものと推定されます。

気象業務支援センターでは、平成18年度から先端技術を活用した農林水産研究高度化事業の「スギ雄花形成の機構解明と抑制技術の高度化に関する研究」のなかで「雄花形成と気象要因の相互関係の解明」の課題を担当しております。

この研究は、スギ試験林で精密な気象観測と雄花生産量の解析、過去の雄花生産量と気象要因との関連を解析し、雄花形成期における気象条件と雄花生産量の相互関係を解明することを目的としております。この一環として、当センターでは本年2月から千葉県森林研究センター上総試験地のスギ試験林内で精密な気象観測を開始しました。

現在、2007年春から夏を対象として、精密な気象観測によって得られたデータと花芽観察記録を用い、雄花形成期に至るまでのスギ林分内の気象環境条件と雄花生産量の比較、解析と雄花生産量を支配する気象因子を抽出する解析に着手しています。

今後、平成20年度末を目途にスギ雄花生産量の新たな推定法を確立し、学会等においても公表していく予定です。

(基)

表 精密な気象観測の要素

風・乱流量	超音波風速計
気温	白金抵抗温度計
湿度	静電容量式湿度計
雨量	転倒ます雨量計
日射	太陽電池式日射計
スギ枝葉温度	熱電対温度差計
花粉濃度	リアルタイム花粉モニタKH-3000
雄花生産量	適宜トラップ調査を実施
計測期間	2007年2月～2009年3月



図 上総試験地の気象観測設備